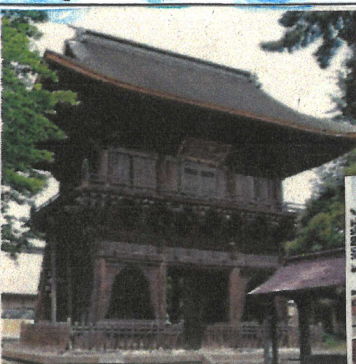


弘前の歴史と重要文化財マップ

長勝寺

1528年に南部光信のお寺として、檀里(現在の鯉ヶ沢町)に建立されました。その後、光信の子孫の津軽信牧の時代にその1611年に弘前城築城にあわせて現在地に移りました。その長勝寺が(図1)です。本堂は、八室からなり、全国的にも、とも古いものの一つです。(図2) 庫裏は、大きなかやぶきの屋根が印象的で、1798年に建て直された建物です。(図3) 御影堂(みえいどう)は、津軽為信の木像を置くために、1628年に建てられたといわれています。ちなみに1622年に津軽為信の木像は、津軽為信の前につくりました。また、そのまわりの色も当時のままです。(図4)



(図1)



(図3)

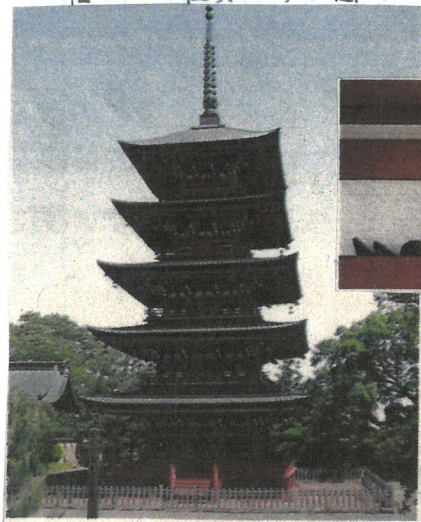


(図4)

最勝院五重塔

建てられた年は1667~1668年で、高さは12m。まわりには、十二支かんがかけています。五重塔のまわりの赤は、へんからこい、て、岩石から作った色です。弘前のみんながお金を出して建てた。その五重塔が(図5)です。各階の外観が違い、1階のかえるまたに十二階の幅が半分程度です。(図6)

(図5)



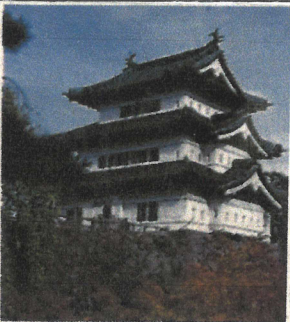
(図6)

ふり返り

見学して、いがいと弘前には、古い建物があるということがよく分かりました。また、少ない時間でいろいろな所を学べたので、いい勉強になりました。楽しかったです。

弘前城

弘前城は平成27年に天守をひびきやし、平成28年3月に天守の解体を完了し、令和2年に天守の積み直し工事を開始しました。その石垣は約200個と、いわれられていて、岩本山のきせきあんげん岩を使っています。そして、天守がもどってくるのは、令和7年だといわれています。(図7)



(図7)

(図8)

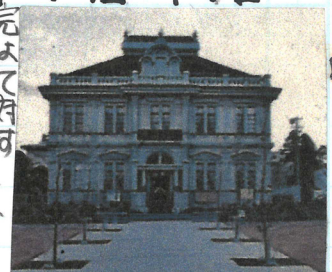
弘前公園

弘前公園の門にはいろいろなものがあり、それぞれに特徴があります。その九道手門(おおもてもん)は、三素木造りとなっていて、戦国時代の古い形式を残すものといわれています。(図8)



第五十九銀行本店本館

明治37年(1903)年に完成しました。石づくりのまわりが見えますが、木で建てられています。(図9) 左右対称のまわりを見ることができ、防火構造になっています。天井には、なんからかわかみを使っているなど、手に入らない高価な材料もたくさん使われている建物です。(図10)



(図9)

(図10)

木村産業研究所

昭和7年(1932)に完成した建物。日本で最も早い時期のモダニズム建築で、前川國男が初めて設計した建物です。今年の8月2日に、前川國男の建物として始めて重要文化財になりました。(図11)



(図11)

